

<p><b>★夢と希望を持てる日田</b></p>
<p><b>実施計画</b></p>
<p>「良く学び良く遊ぶ」子供の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全小学校区に「放課後児童クラブ」の設置（H22年）</li> </ul>
<p><b>背景及び課題（日田市からの回答）</b></p>
<p>少子化の進行は、遊びを通じての仲間意識の形成や児童の社会性の発達に大きな影響があり、児童が地域の中で自由に遊び、安全に過ごす場の整備が必要となっています。特に、核家族化や親の共働きなどの増加により、児童が放課後に安全で健やかに過ごせる居場所づくりが必要とされています。</p>
<p><b>進捗状況（日田市からの回答）</b></p>
<p>・ 全小学校区に「放課後児童クラブ」の設置 【達成状況：達成に向け推進中】</p> <p>放課後の子どもの安全で健やかな居場所づくりとして、放課後児童クラブや放課後子ども教室の設置に向け、定期的に保護者へのアンケート調査を実施する中で、育友会や地域に出向いて説明会を開催しています。</p> <p>現在、要望のあった校区については全て設置を完了し、31の小学校区がある中、放課後児童クラブを14校区、放課後子ども教室を3校区の17校区に設置しています。</p> <p>今後においては、既に設置されている放課後児童クラブの環境等の整備を図るとともに、未設置校区につきましては、引き続き説明会を開催するなど開設に向けた具体的な支援を行いながら、全小学校区設置に向け取り組みます。</p>
<p><b>市長自己評価コメント</b></p>
<p>子育てに関し、悲惨な事件が相次いでおり、学校・地域・家庭が一体となった取り組みが大切です。</p> <p>学校が終わった後は、地域で子どもの面倒をみるとも言える児童クラブの存在は重要であり、引き続き、全小学校設置に向け、取り組んでいきます。</p>
<p><b>★市民の評価</b></p>
<p><b>評価観点</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後児童クラブの全小学校区設置に向けて行政がどのようにサポートしているか。</li> <li>・ 放課後児童クラブの機能や運営の充実（人材・場所等）に行政がどのようにサポートしているのか。</li> </ul>
<p><b>評価手法（評価主体となった市民、団体、組織なども記入）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後児童クラブの指導員や保護者へのヒアリング</li> <li>・ 現存放課後児童クラブ（14校）の保護者へのアンケート</li> <li>・ 現存放課後児童クラブ（14校）の指導員へのアンケート</li> <li>・ 日田市役所 こども未来室へのヒアリング</li> <li>・ 放課後児童クラブのない、夜明小学校、五馬市小学校の保護者へのヒアリング</li> <li>・ 放課後児童クラブのない、馬原小学校、五馬市小学校の保護者へのアンケート</li> </ul>

## コメント

・放課後児童クラブ全小学校区設置に向けて、日田市内31小学校区に対して、現在14校区において放課後児童クラブが設置されています。(社)日田青年会議所が現存の全放課後児童クラブの保護者を対象にしたアンケート結果では、「とても満足している」(57%)「ある程度満足している」(37%)と「満足している」と回答された保護者は合わせて94%にも上り、利用者の満足度が非常に高いことが伺えます。

一方、「放課後児童クラブをより充実させるために必要だと思われることは何ですか」という質問では、「指導員の保険や賃金等の保障がないため入れ替わりが多い」「子供たちの人数によって助成金が変わるような不安定なシステムの改善」という回答がありました。市からの委託金と保育料で運営され、児童数によりその財源が左右され、指導員の給与が不安定であるため、指導員の勤務が長く続けにくいという問題があり、保護者が指導員にならざるを得ないという様な状況も一部見られます。

現在、日田市の放課後児童クラブには、他の自治体のような統一基準がなく、指導員の採用基準、教育も各クラブ任せになっています。他自治体では、統一基準準備委員会を開き統一基準作成を行っています。日田市の放課後児童クラブも統一基準の作成は、指導員の給与の保障及び、児童の安全性、サービスの均一性の面からも急務だと思います。

また、「親同士のコミュニケーションを今まで以上に良くすればいいと思う」「施設が狭いので広くしてほしい。具合が悪くなった子が休める場がない」「エアコンを付けて欲しい」など、多数要望や提案がありました。現在の放課後児童クラブ連絡協議会を頻繁に行い、行政との連携を密にし、各クラブが抱える問題を共有し、解決していく取り組みが必要と考えます。

・次に、放課後児童クラブのない馬原小学校の保護者を対象としたアンケートも行いました。放課後児童クラブが、「必要」(17%)「今は必要ないが、将来的に必要」(22%)との回答に対し、「必要ない」(61%)と回答された保護者が、過半数を超えました。これは、馬原小学校区には既に児童館があり、そこで子供が過ごせるというのが、大きな要因と思えます。ただ、39%が、「必要」と回答しています。理由の多くは、「児童館はあるが利用時間が午後5時半までなので、仕事の帰りが遅いので困る」というものでした。このことから、今ある児童館と連携しながら、ニーズに即した放課後児童クラブのあり方を考える必要もあると思えます。

同じく放課後児童クラブのない五馬市小学校へのアンケートでは、「必要」(36%)「今は必要ないが、将来的に必要」(28%)に対し、「必要ない」(36%)と、「必要」と思う保護者が、合わせて、64%と「必要ない」の回答を上回りました。「必要」と思う理由には、「共働きで家にいない事が多い」等の他、「家に祖父母がいても家の中で遊んでいないので、学習・生活の面で、目が行き届かない為不安である」「家でゲームばかりしているので将来が不安」など、今の社会情勢を反映した様な意見もありました。また、同じく放課後児童クラブのない夜明小学校区の保護者にヒアリングした結果、「クラブを設置してほしい」という意見は少数ながらもあったようです。しかし、設置に至らないのは、いずれも保護者による運営委員会の発足への負担が大きいと思っているからでした。少人数校区ではこの問題が設置に至らない一番大きな理由のようです。

しかし、同じ少人数校区(現在総児童数51名、クラブ利用者数10名)の中津江小学校では、放課後児童クラブが必要と考える保護者が中心となり、運営委員会を立ち上げ、現在クラブ運営を行っています。保護者の子育てに対する熱意で設置に至ったと聞きました。まず、行政がクラブを必要としている保護者を把握し、その保護者同士を集め、運営に関する話し合いをもつことが第一歩だと考えます。保護者も含め地域の住民がそこに携われる地域ぐるみの子育てを行う様な、市民のサポート体制づくりも大切だと思います。

児童数の少ない小学校区でも子育てを終えた保護者や地域住民が参加しやすくすることで、保護者の負担も軽減するのではと考えられます。特に、少人数の小学校区での放課後クラブの設置は保護者の負担軽減が鍵だと思います。

・「小学校(教育委員会)と放課後児童クラブ(こども未来室)の行政担当課の違いで、弊害はないですか」という質問には、「弊害はない」という回答がほとんどでしたが、ヒアリングでは「小学校単位でクラブに対する対応が違う」と言う意見もありました。サービスを受ける住民にとっては同じ小学校区ですので、行政の担当課の違いは関係ないことで、担当課同士で連携調整を図り統一する必要があります。熊本市などでは各課を子どもみらい局に統合し、縦割り行政の弊害をなくす努力をしています。

## 市民の採点

形式と妥当性の評価	19/30
実行性の評価	28/50
効果の評価	6/20(10)
合計点	53/100(90)